

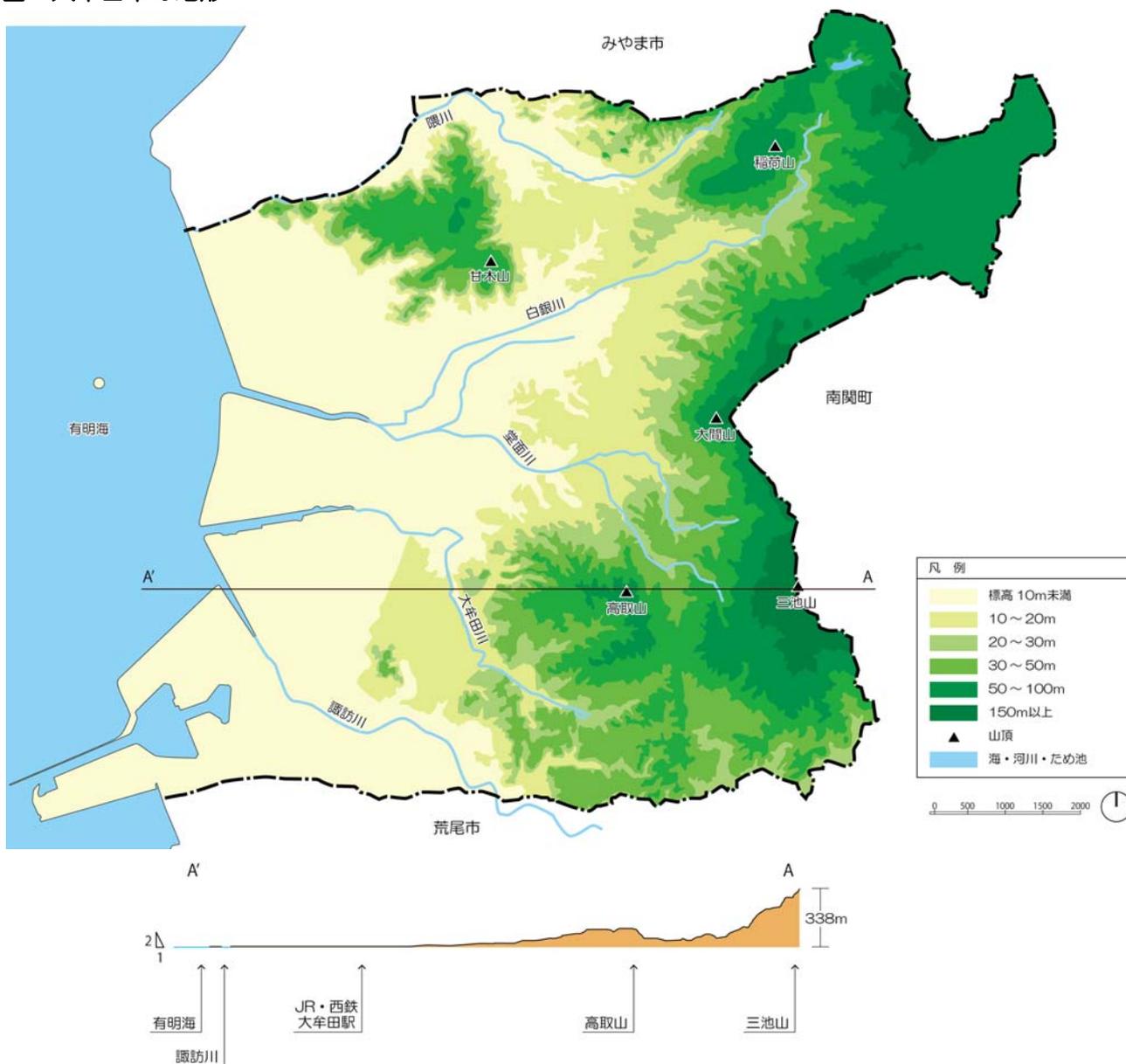
第1章 大牟田市の景観特性と課題

1 大牟田市の景観の成り立ち

本市は、東部に三池山^{みいけざん}（338m）、大間山^{だいまやま}（225m）からなる丘陵性山地をなしており、西部の有明海に向かって平坦な地形となっています。

また、北部に甘木山（123m）から黒崎にかけての丘陵地が形成され、これらの谷間には、隈川、堂面川、大牟田川、諏訪川の4河川4水系と堂面川の支流である白銀川が、東部丘陵から有明海に注いでおり、臨海部には干潟がみられます。このような地形特性から、有明海では、遠浅の美しい海の眺めとともに、市街地から田園地域、その背後には豊かな山なみの景観が広がっており、海と大地からなる自然景観を見ることができます。

図 大牟田市の地形



一方、本市は石炭産業とともに発展してきた鉱工業都市であり、その歴史は1469（文明元）年の「燃える石」の発見に始まります。1721（享保6）年に柳河藩による石炭採掘が開始され、1873（明治6）年に官営、1889（明治22）年に三井家の経営となり、日清・日露戦争を背景とする富国強兵策のなかで発展し、大正期、第一次大戦を契機として化学工業が起こり、昭和のはじめにかけて鉱山関連事業所が相次いで設立され、石炭を原料とする化学コンビナートとしての特色を強めました。



三池石炭発見伝説図

しかし、三井三池炭鉱は、国のエネルギー政策の転換によって、1997（平成9）年3月に閉山し、江戸時代中期から続いてきた120有余年の石炭採掘の歴史に幕を閉じましたが、これまで築き上げられた炭鉱関連施設が本市の特徴的な炭鉱景観として残されています。

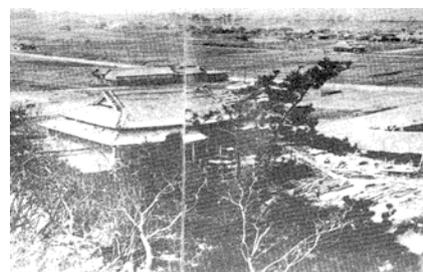
図 明治期の大牟田



明治期の地形



明治の大牟田（高島北海画）



明治末期の大牟田

図 大正・昭和初期の大牟田



昭和初期の地形

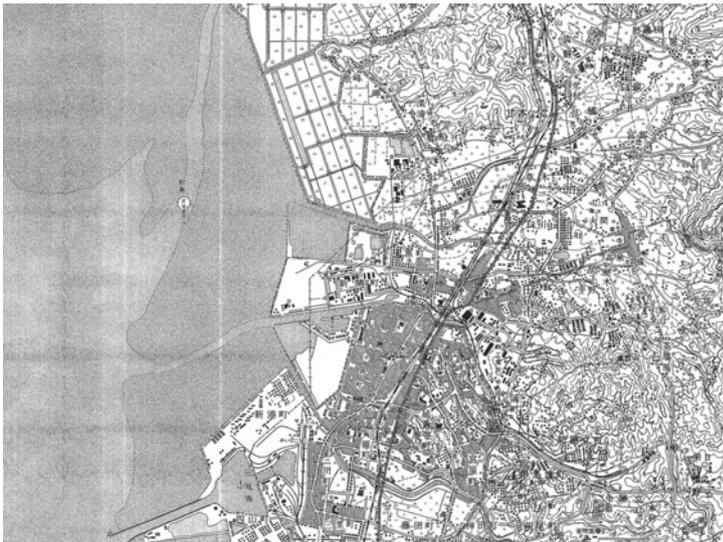


大正期の大牟田



昭和初期の築町通り

図 昭和中期的大牟田



昭和中期の地形

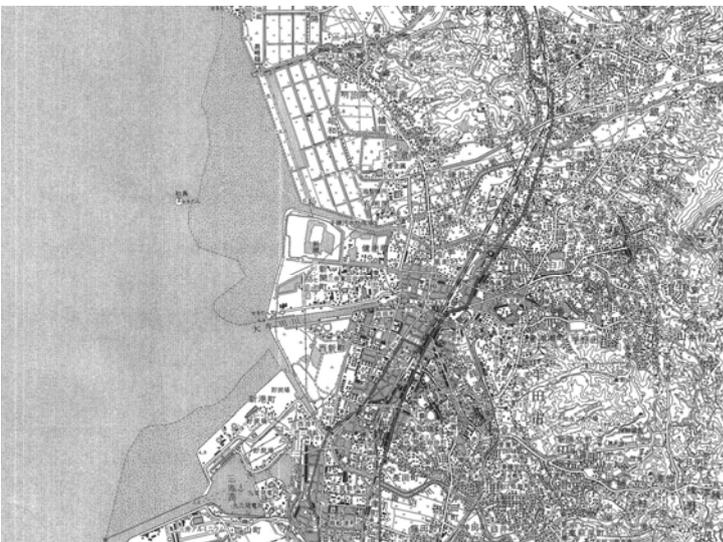


戦災復興後の中心市街地



昭和中期の新栄町

図 現在の大牟田



現在の地形



現在の市街地



九州新幹線



おおむた「大蛇山」まつり一万人の総踊り

※国土地理院発行 1/50,000 地形図「柳河（明治 33 年製版）」、「大牟田（昭和 6 年修正）」、「大牟田（昭和 43 年修正）」、「大牟田（平成 6 年修正）」を使用

2 景観特性

本市の景観には、人と自然の営みによる「自然的景観」、先人の積み重ねによる「歴史的景観」、現代の暮らしによる「都市的景観」という性質があります。

これらの性質を、本市の土台を形づくる「骨格的な景観」、特徴的な取り組みによって保全・形成されている「地区の景観」、共有すべき大切な「景観資源」の3つの視点で整理します。

図 景観特性

		景観の性質		
		人と自然の営みによる 「自然的景観」	先人の積み重ねによる 「歴史的景観」	現代の暮らしによる 「都市的景観」
景 観 の 視 点	市の土台を形づくる「骨格的な景観」	山、海、川、田園等 	古墳、街道、炭鉱等 	道路、鉄道、土地利用等 
	特徴的な取り組みによって保全・形成されている「地区の景観」	自然公園、風致地区等 	重要文化財、史跡等 	臨港地区、地区計画等 
	共有すべき大切な「景観資源」	丘陵地、河川、樹木等 	社寺、炭鉱施設、祭り等 	公共施設、公園等 

(1) 骨格的な景観

1) 骨格的な自然的景観

○東に山並み、西に有明海を望む地形

本市は、東部の^{だいまやま}大間山、^{みいけざん}三池山等の丘陵性山地から西部の有明海に向かって平坦な地形となっています。隈川、^{しらがねがわ}白銀川、堂面川、大牟田川、諏訪川の主要な河川は、東部の山地等を源流として有明海へ注いでいます。



堂面川から眺める三池山

○丘陵地のみかん畑、河川沿いに広がる田園と山すその農村集落

^{かみうち}上内などの東部の丘陵には、みかん畑が多くみられ、隈川、白銀川、諏訪川などの河川沿いにまとまった水田が広がっています。農村集落は、丘陵地と河川の間、山すそに位置し、背景の山や前面の田園と一体的な景観となっています。



上内の田園

○干満差日本一の有明海の広大な干潟と干拓の農地

有明海は、干満の差が日本で最も大きく、最大6mにも達します。このため、干潮時には広大な干潟が見られます。

臨海部の北側には、明治以降に盛んとなった干拓による大規模な農地が広がっており、冬は、干拓地の堤防から有明海一面に張りめぐらされる海苔の養殖畑を眺めることができます。



有明海の夕日

○山から海への一連の自然から育まれる多様な生物

本市には、約2,300種にもものぼる動植物が確認されており、山や川、海辺等の豊かな自然から育まれる地域固有の生物が見られます。中には絶滅の恐れのあるニッポンバラタナゴやカスミサンショウウオ、シオマネキなどの貴重な生物も生息しています。



白銀川等に棲むニッポンバラタナゴ

2) 骨格的な歴史的景観

○小高い丘に築かれた古墳

北部の稻荷山、甘木山、黒崎の丘陵地は古墳集積地となっており、南部に見られるくくりつか潜塚古墳や萩ノ尾古墳も小高い丘に築かれています。



黒崎観世音塚古墳

○市域を縦貫する三池街道

三池街道は、南の熊本県玉名市と北の柳川市を結んだ幹線道路で、鎌倉時代には既に人々の往来があったと言われています。市域を南東から北西に縦貫しており、街道沿いには石積みの眼鏡橋などの歴史的景観資源が残っています。



三池陣屋の眼鏡橋

○南部に形成された三池炭鉱関連施設

石炭層を多く含む地層が市の南部に広がっていたことから、石炭を採炭する三池炭鉱の坑口や運搬する専用鉄道敷、積出港である三池港などの三池炭鉱関連施設は、市の南部に集中しています。



旧三池炭鉱専用鉄道敷諏訪川鉄橋

3) 骨格的な都市的景観

○南北に通る鉄道及び主要幹線道路

交通軸であるJR鹿児島本線や九州新幹線、西鉄天神大牟田線、国道208号、有明海沿岸道路などは、いずれも南北に通っています。道路網は、国道208号を軸に臨海部の工業地や東側の住宅地を結ぶように伸びています。



有明海沿岸道路

○中心部の化学コンビナートと臨海部の流通・工業団地

明治期の三池炭鉱の発展とともに形成された化学コンビナートが本市の中心部に位置し、J工場や煙突などは、市を代表する景観の一つです。また、臨海部には、物流拠点として100年以上の歴史がある三池港や、新たにリサイクル施設の立地が進んでいるエコタウンがあり、多様な工場景観を有しています。

一方で、三池炭鉱の閉山など、産業構造の転換により、工場跡地や工場従業者用の社宅跡地等が大規模な低・未利用地となっています。



炭鉱電車とJ工場

○低中層の建物が大半の住宅地

本市の住宅は約7割が戸建て住宅で、低中層の落ち着いた住宅地景観が大半を占めています。

石炭産業の進展とともに開発が進んだ南部では、老朽化した木造住宅や住宅密集地が見られますが、北部や東部では、新規の大規模な戸建て住宅地開発が見られ、建物の更新が進んでいます。



羽山台の住宅地

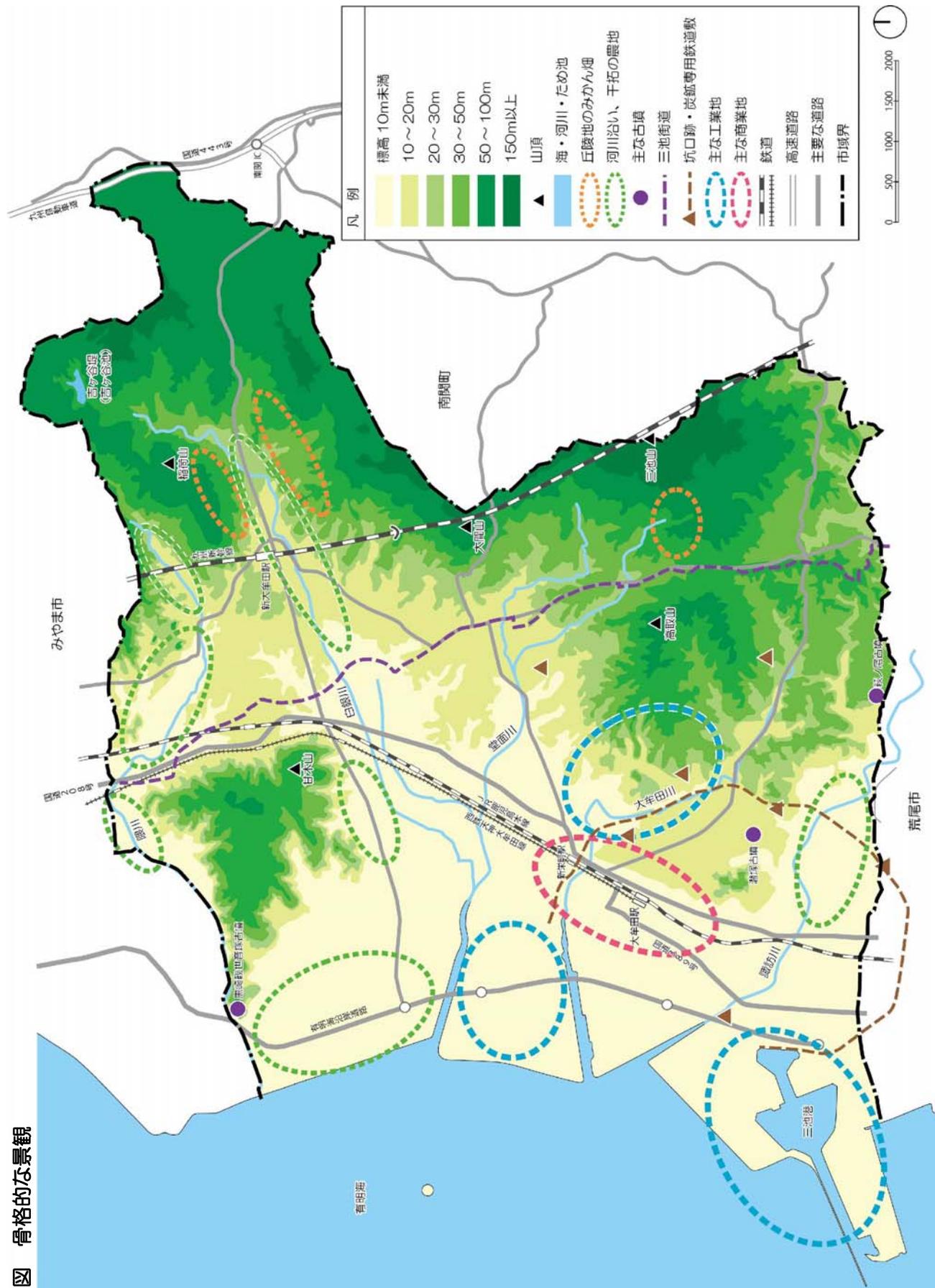
○高層住宅が増えつつある商業業務地

市役所をはじめとした主要な公共施設、業務施設は大牟田駅周辺に、旧来の中心商業地は西鉄新栄町駅周辺に集積しています。近年は、高層住宅の立地が増えたことにより、機能の複合化やまちなみの高層化が進んでいます。



新栄町駅周辺の高層住宅

図 骨格的な景観



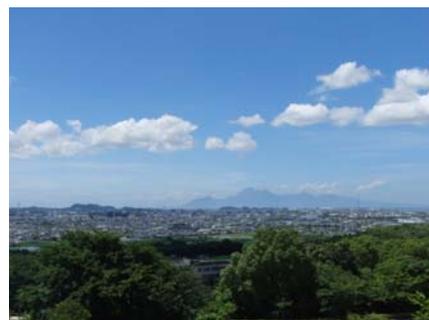
(2) 地区の景観

1) 地区の自然的景観

○甘木山の自然と眺望を活かした矢部川県立自然公園

本市の北部の甘木山から黒崎にかけて形成されている丘陵地は、自然林が多く残っており、矢部川県立自然公園に指定されています。

甘木山からは、市街地や有明海が一望でき、遠くは長崎県の島原半島、雲仙の普賢岳や平成新山を望むこともできます。また、黒崎公園周辺は、風致地区（第2種）に指定され、緑と周辺の集落景観を一体的に守っています。



甘木山から眺める市街地

○中心部に位置する丘陵地の緑を活かした延命公園

延命公園は、市街地に最も近い場所に位置する丘陵地を整備し、本市で最初に開設された代表的な公園です。延命公園周辺は風致地区（第3種）に指定されており、丘陵地の緑豊かな景観を守っています。



延命公園（大牟田市動物園入り口）

2) 地区の歴史的景観

○三池炭鉱関連施設のシンボリックな宮原坑跡、万田坑跡

鋼鉄製のたてこうやくら 竪坑 櫓 とレンガ造の巻揚機室等が残る宮原坑跡、万田坑跡は、三池炭鉱関連施設のシンボリックな存在で国の重要文化財に指定されています。建物だけでなく、周囲の敷地も合わせて国の史跡に指定されており、歴史的な景観を守っています。



宮原坑跡

3) 地区の都市的景観

○緑に囲まれた産業拠点

臨海部の大規模な工場では、工場緑化を行っており、緑に囲まれた工場景観が維持されています。

また、三池港は、1908（明治 41）年の築港時より 100 年以上変わらぬ姿で稼働し続けています。三池港は、臨港地区に指定されており、港湾区域にふさわしい土地・建物利用を推進しています。

一方、南関 IC に近接した大牟田テクノパークでは、地区計画に基づいて、周囲の自然環境と調和した景観形成に取り組んでいます。



三池港全景

○都市の顔となる駅周辺のまちなみ

大牟田駅周辺は、戦災復興土地区画整理事業により整備され、整然とした通りとなっており、ケヤキやナンキンハゼなどの並木道が形成されています。

西鉄新栄町駅周辺は、空き地や空き店舗が目立っており、交通結節機能の強化や複合的な機能の誘導を図り、生活利便性の高い街なか居住を促進することで環境改善に取り組んでいます。また、新たな交流施設の整備や再開発事業の検討も進められています。

九州新幹線開通により整備された新大牟田駅周辺は、地区計画に基づいて、周囲の自然環境や田園環境と調和した景観形成を目指しています。

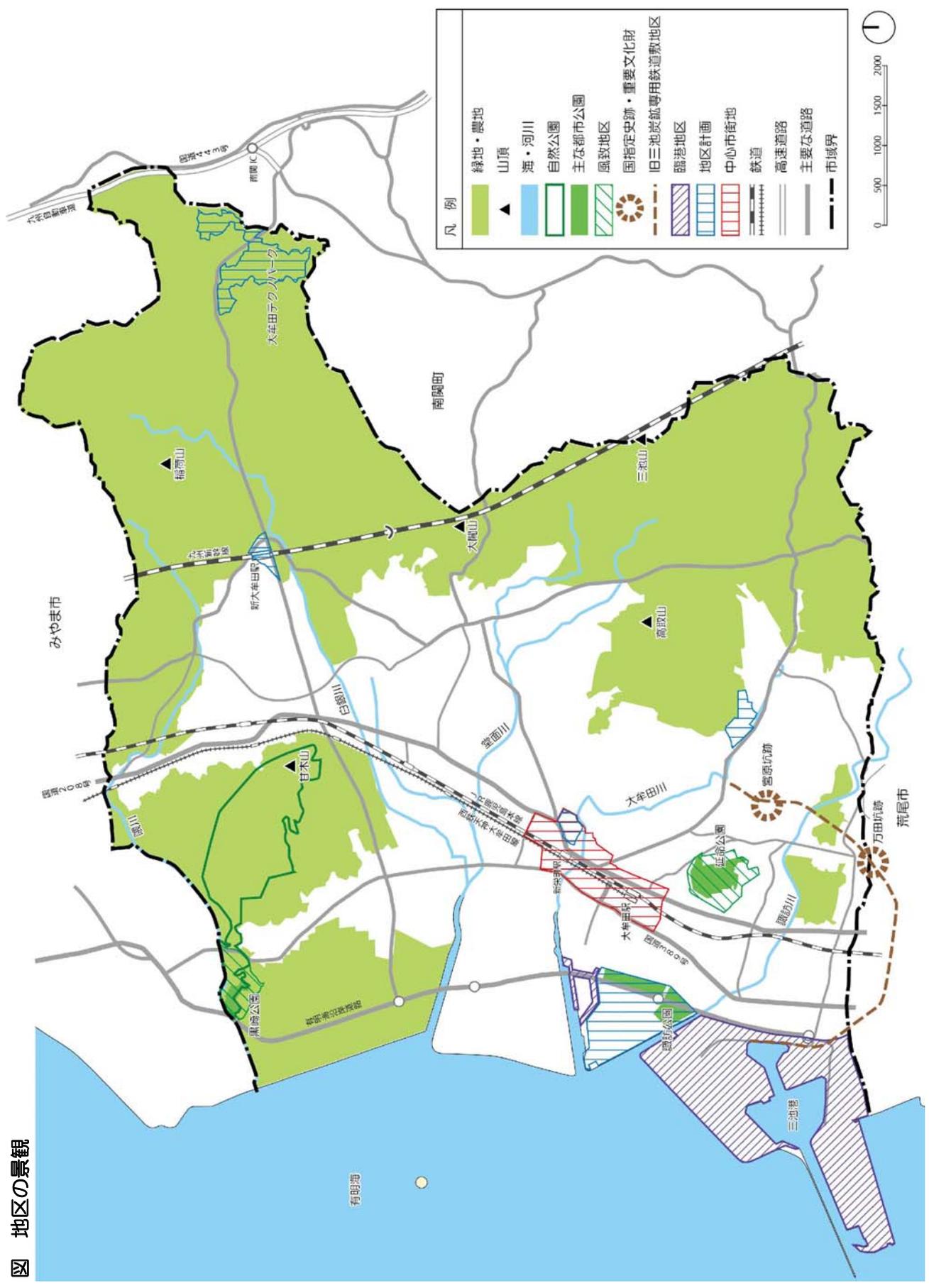


国道 208 号



九州新幹線・新大牟田駅

図 地区の景観



(3) 景観資源

「骨格的な景観」、「地区の景観」に、樹木や建築物等の点的な景観要素や伝統行事等の景観を守り・創る活動を加え、市民・事業者・行政が共有すべき本市の大切な「景観資源」を整理します。

1) 自然的景観資源

自然的景観資源には、「山地・丘陵地」、「海、河川・ため池」、「農業、農村集落」、「樹木」、「地層・岩石」といった要素があります。

表 自然的景観資源

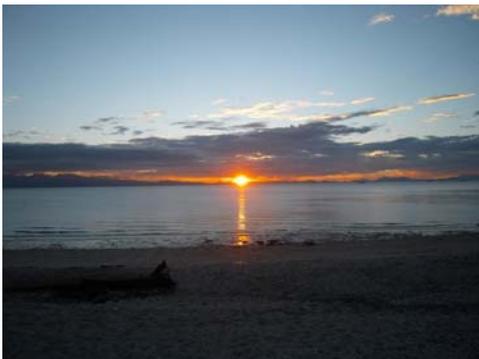
要素	主な景観資源
山地・丘陵地	甘木山、三池山、稻荷山、大間山、高取山
海、河川・ため池	有明海、干潟、旧三池海水浴場
	隈川、白銀川、堂面川、大牟田川、諏訪川、 <small>よしがだにつつみ</small> 吉ヶ谷堤
農業、農村集落	干拓の農地、丘陵地のみかん畑
	上内、 <small>しか</small> 四箇、 <small>いちの</small> 櫟野、 <small>きょうらぎ</small> 教楽来
樹木	普光寺の <small>がりゅうばい</small> 臥龍梅、定林寺のあじさい、黒崎の <small>おおくま</small> 大樟、烏塚の樹林
地層・岩石	稻荷層（石炭層）、 <small>やけいしやま</small> 焼石山公園の米の山断層、 <small>かったち</small> 勝立層（化石層）、岩本の長者岩、櫟野石



三池山



有明海の干潟

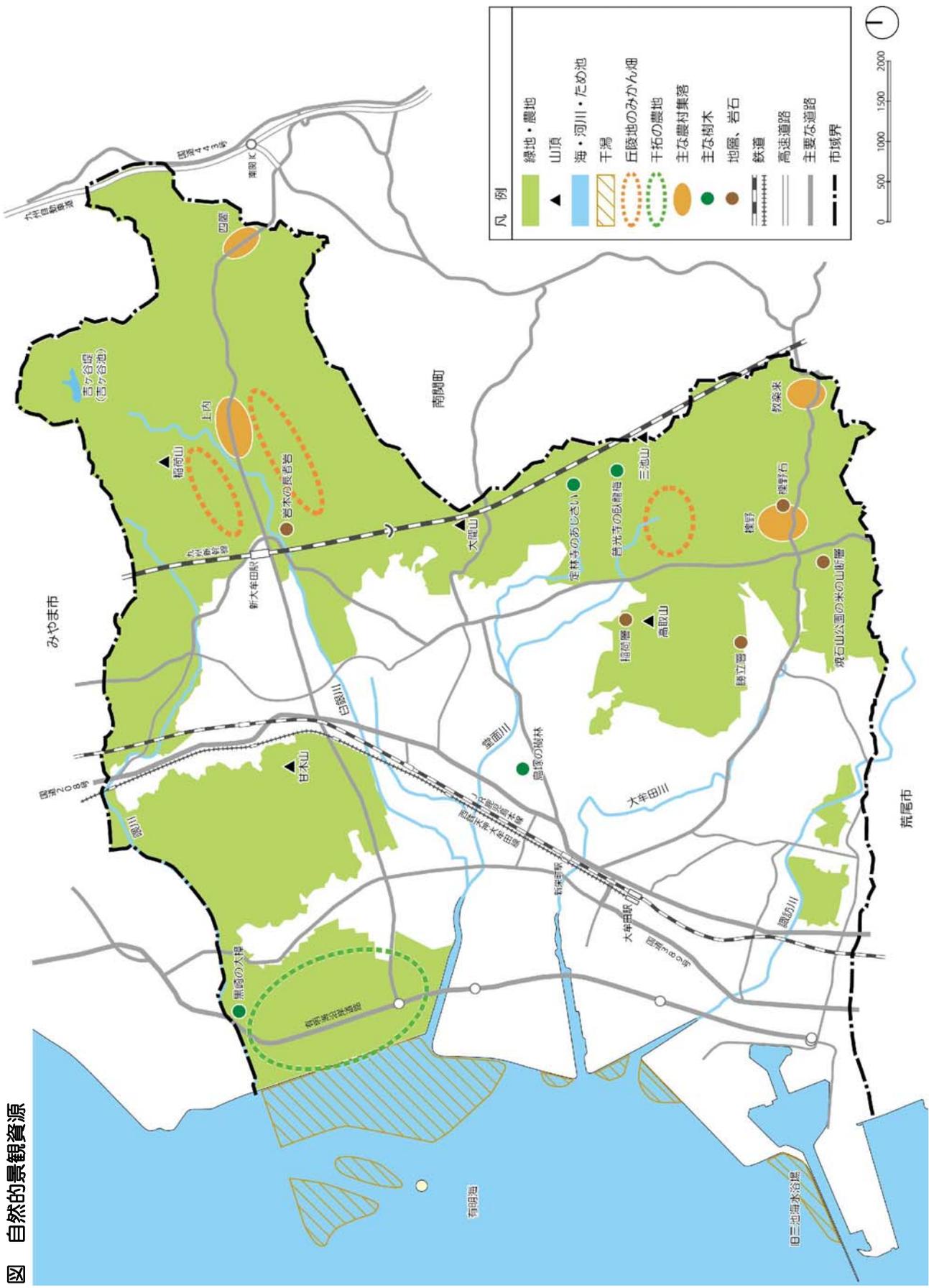


旧三池海水浴場から眺める夕日



普光寺の臥龍梅

図 自然的景観資源



2) 歴史的景観資源

歴史的景観資源には、「古墳」、「社寺、墓地」、「炭鉱関連施設」、「街道、橋」、「祭り・伝統行事」といった要素があります。

表 歴史的景観資源

要素	主な景観資源
古墳	黒崎観世音塚古墳、潜塚古墳、萩ノ尾古墳
社寺、墓地	普光寺、定林寺、教楽来天満神社、稲荷神社、紹運寺、弥劔神社、駿馬天満宮、草木八幡宮、熊野神社、三笠神社、玉垂神社、慧日寺、倉永諏訪神社 ----- 仙台奥さんの墓（イボ観音）、歴代三池藩藩主墓地、立花内膳家墓地
炭鉱関連施設	三池炭鉱宮原坑跡、三池炭鉱万田坑跡、三池炭鉱三川坑跡、旧三井港倶楽部、旧三川電鉄変電所、旧三池炭鉱専用鉄道敷、人工島初島・三池島、旧三池集治監、旧長崎税関三池税関支署、三池港、三池港閘門、宮浦石炭記念公園（三池炭鉱宮浦坑跡）
街道、橋	三池街道 ----- 三池陣屋の眼鏡橋、早鐘眼鏡橋、泉橋
祭り・伝統行事	大蛇山まつり、三池初市、水（臼）かぶり、銭太鼓踊りとひゅうたん廻し、駿馬天満宮のうそ替えまつり、渦いね踊り、大牟田二十日えびす



旧三川電鉄変電所



三池港閘門



大蛇山まつり

3) 都市的景観資源

都市的景観資源には、「道路、鉄道・駅、橋」、「工業地・産業拠点等」、「公共施設」、「公園・緑地、並木道」といった要素があります。

表 都市的景観資源

要素	主な景観資源
道路、鉄道・駅、橋	国道 208 号、有明海沿岸道路、九州自動車道
	JR 鹿児島本線、西鉄天神大牟田線、大牟田駅、九州新幹線、新大牟田駅
	諏訪川橋、大牟田連続高架橋、健昭橋
工業地・産業拠点等	エコタウン、三井化学工場群、三池港、大牟田テクノパーク、工場の煙突
公共施設	道の駅おおむた、リフレッシュおおむた、大牟田市庁舎、大牟田商工会議所、大牟田文化会館、三池カルタ・歴史資料館、石炭産業科学館
公園・緑地、並木道	大牟田市動物園、延命公園、諏訪公園、大牟田港緑地運動公園
	メタセコイヤ並木（宮浦石炭記念公園前）、ケヤキ並木（国道 208 号）、ナンキンハゼ並木（大牟田警察署前）



エコタウン



石炭産業科学館



大牟田市動物園



宮浦石炭記念公園前のメタセコイヤ並木

3 景観形成の課題

本市の景観特性や市民の意向を踏まえ、景観形成の課題を整理します。

(1) 市民の意向

平成 23 年度に実施した「景観まちづくりに関するアンケート」の結果に基づいて、市民の意向を次のように整理します。

1) 自然景観や住宅地景観の向上

現在と将来の本市の景観イメージをうかがったところ、現在のイメージは「炭鉱景観」や「工場景観」が多く、将来のイメージは「自然景観」や「住宅地景観」が多い結果となり、美しい自然や良好な住宅地景観の進展を望んでいることがうかがえます。

2) 今ある景観や空き地・空き家の適正な管理

景観を損ねている点や大切な取り組みについては、「空き家や空き地が放置されていること」や「今ある景観の維持管理活動」への意見が多く、適正な管理を重視していることがうかがえます。

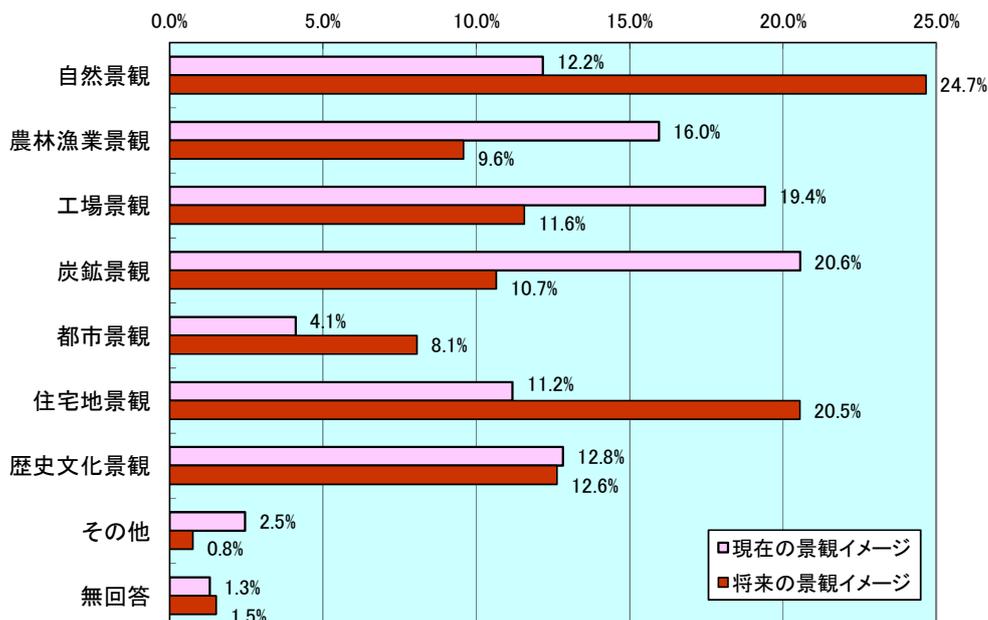
3) 景観資源を通じた景観まちづくりへの参加

今後、参加してみたい景観まちづくり活動については、「公園、河川、道路植栽等の清掃活動」や「景観資源の散策ツアー等のイベントへの参加」に関心が高いことがわかりました。

4) 市民・事業者・行政の協働による取り組みの推進

景観まちづくりの進め方については、「市民・事業者・行政の協働による取り組み」を望む意見が最も多く、多様な主体の協力体制を重視していることがうかがえます。

図 現在と将来の本市の景観イメージ



資料：景観まちづくりに関するアンケート

(2) 景観形成の課題

本市の景観形成の課題を次のように整理します。

1) 自然環境の保全と緑化推進を基本とした骨格的景観の形成

本市の土台を形づくり、まちなみの背景となる自然環境の重要性を改めて認識し、あらゆる建築行為や開発行為等に対し、山並みや丘陵地の緑環境、海や河川の水辺環境の保全に配慮を求める必要があります。

特に重要な区域は、自然公園や風致地区指定により保全されていますが、市全域が対象ではありません。そこで、山並みやまちなみに大きな影響を与えるおそれのある行為に対しては、市全域において届出・協議ができるような仕組みが必要です。

2) 政策的な地区の景観と住宅地景観の魅力の向上

本市において特徴的な景観を有する地区は、都市公園や産業拠点など、政策的に保全・形成されてきた箇所が多く、今後も工場や社宅の跡地利用や再開発等の推進が予定されています。そのため、これらの機会を活かし、計画的に景観形成を進めることで、都市の魅力向上につなげていくことが必要です。

また、本市には戸建ての住宅団地が多く、新規の戸建て住宅地開発が進んでいることから、事業者や住民と協力しながら、より魅力的な住宅地へと進展するような景観誘導が必要となっています。

3) 今ある景観資源の活用と育成

市民アンケートでは、今ある景観を維持することや景観資源の散策ツアー等への参加などに関心が高い傾向にあり、景観まちづくりに関する積極的な情報提供を望んでいることもうかがえました。そのため、景観に対する関心や理解を深めることや、景観資源を核にして活力あるまちづくりへ発展させていくことが重要となります。

そこで、多様な景観資源の存在や価値を共有するための取り組みや、景観資源とその周辺の一体的な整備などを通じて景観資源を活かしたまちづくりを推進し、生活環境の向上や観光振興につなげていくことが必要です。

4) 景観形成の先導役となる公共施設の整備

国道208号や有明海沿岸道路、延命公園、三池港など、本市の公共施設は、景観資源そのものであるとともに、景観資源をつなぐ施設でもあります。しかし、整備や管理の主体が異なることで、一体感や連続感のない景観となるおそれもあります。そのため、良好な景観形成をリードし、お手本となるような景観整備や、そのような整備を円滑に行うための仕組みが必要です。

5) 市民・事業者・行政の協働による景観形成の推進

今ある景観の維持管理や魅力的な景観を新たに創出していくためには、市民一人ひとりをはじめとして、地域のコミュニティ、NPO、事業者などとの連携が不可欠です。各々の役割を明らかにしつつ、それぞれが主体的に活動できる取り組みや、協力が必要な取り組みなどを整理した上で、協働による景観形成に向けた仕組みづくりを行う必要があります。

